



今日のお話は、

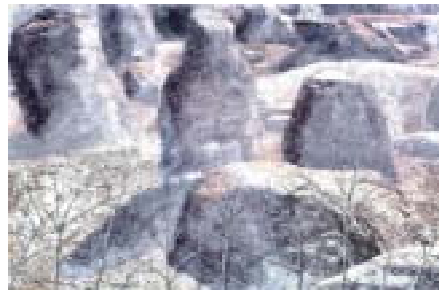
雪山せっせんという山に住んでいる、寒苦鳥かんくちようという

なまけ者の鳥のお話です。

『新池御書』（御書一四五七頁）に、

雪山に住む寒苦鳥という鳥は、寒さに苦しんで、夜が明けたなら巣を作ろうと思うけれども、太陽がでて暖かくなると、つい眠ってしまって、結局巣を作らないで、そんなことを繰り返して一生苦しんでいる。人々も同じようなもので、地獄に堕ちて炎にむせぶ時は、願わくばこんど人間に生まれて、諸々のことをさしおいて、仏法僧の三宝を供養し、後世の道をたすかろうと願っても、たまたま人間に生まれた時は、名聞名利の風がはげしく、仏道修行の灯は消えやすい。無益な事に財宝を使い尽くすことは惜しくないが、仏法僧に少しの供養をするのをいやと思ふことは、これはただごとでない。地獄の獄卒が負けまいとして引っぱっているのである。善の心が小さく、魔の心が大きいというのはこれである。とあります。

よい子のみんなは、このお話をよく聞いて、寒苦鳥のような、やらなければならないことを、あとまわ後回しにする、なまけ者にならないように、頑張っていきましょうね。  
では始めます。



むかし、インドに雪山と云い、云つても高い山がありました。

一年中雪がふつていて、それはそれは寒い、ちぢみあがるほどの寒さです。

特に夜の寒さは、たとえようのない厳しい寒さでした。

そして、この雪山には寒苦鳥という鳥が住んでいました。

寒苦鳥の「寒」は、寒いと云い、字で、「苦」は苦しいと云い、字です。毎晩、寒さに苦しんで鳴いているから、寒苦鳥と言われるようになりました。



「寒いなあー」

「寒くて死にそうだよー」

「明日は絶対あした ぜったいに巣すを作るゾ」

寒苦鳥は、お日様が出てポカポカあたたかい昼の間あいだ、

「もうちょっと、もうちょっと」

と遊んでばかりいて、巣を作ることを、

「あとで、あとで」

と言っている内に、夜になってしまい、眠ることができずに、寒やに苦しくなるのです。

そして、明日こそは絶対に巣を作ると、寒さに震えながら決意するのです……。



寒い、寒いと苦しんでいるところへ、夜が明けて、お日様のここにこ顔が現れました。

「やっと夜が明けたゾ」

「お日様の光りつて、ポカポカとあつたかいなあー」

寒苦鳥たちは、暖かくなつてついウトウト眠つてしまいました。

お日様は寒苦鳥たちに、

「もうお昼ですよ、いつまで寝ているの？」

さあ起きて、今日は巣を作るんですよ！」

と言いましたが、寒苦鳥たちは、

「だつて夜、寒くて寒くて、眠れなかつたん

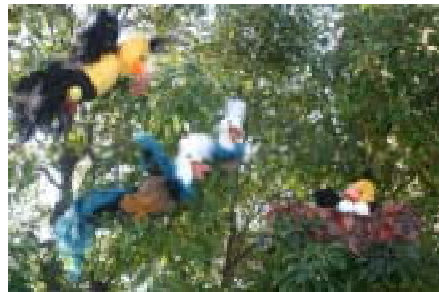
だよ、まだ眠たいよお」

と、まだまだ眠たそうでしたが、

「そうだ、今日こそは巣を作らないと…。」

よし、頑張つて巣を作るよ！」

と起きて、動き出しましたが……



ちよつと眠ることができた寒苦鳥たち、ポカポカ暖かくなつて、巣を作る決意はどこかへ行つてしまつたようです。

あたたかい巣でぐっすりと眠つて、元気に巣のつくりをしている、他の鳥たちのところへ行つて、

「一緒に遊ぼうよー」

「仕事は後まわしにして、ぼくたちと遊ぼうよー」

とさそいしましたが、鳥たちは、

「ぼくたちは、もうじき子どもが生まれるから、巣を丈夫にしたり、ご飯を集めたり、忙しいんだ！」

と、寒苦鳥たちの遊びのさそいを聞き入れませんでした。

寒苦鳥たちは遊ぶことに夢中で、寒かった苦しさを、すっかり忘れてい<sup>わす</sup>ます。

本当に困つたものですねえ。



寒苦鳥たちは、今度はサルさんたちと遊ぼう  
うと思つて、

「ねえねえ、ぼくたちと一緒に遊ぼうよー」

「仕事なんか後まわしにして、何かおもしろ  
いことして遊ぼうよー」

とさそいましたが、サルさんのネーどもまっ

「今お母さんが食べ物を探りにいつてるんだ。  
その間ぼくは、そつじをするのが仕事なんだ。  
遊ぶのは仕事をすませてからね」

と、食べ物を集めたり、巢をそつじするのに  
大忙しで、相手にあいてなつてくれません。



寒苦鳥たちは、今度はリスさんとクマさん  
たちと遊ぼうと思つて、

「ねえ、あ・そ・ぼ！遊ばない？」

と言つと、アライグマさんは下の方の大きな  
岩のところ、巢の穴を掘るのに一生懸命で、  
寒苦鳥たちの声も聞こえません。

リスさんには、

「私はね、食べ物や、巢をなおす木の枝を集  
めるのに、走り回っているの！だから、遊ん  
でいる時間なんかないわよ。寒苦鳥さんもご  
飯を集めたり、巢を作つたりしなくていい  
の？」

と言われてしまいました。



誰も一緒に遊んでくれない寒苦鳥たちは、  
しかたなく、またさっきの鳥さんたちの所に  
戻もどつて、なんとか遊あそぼうとせせつてみますが、

「遊ぶなんてとんでもないよ。見てごらん。

さっき卵から、子どもが生まれたばかりな  
んだ。遊ぶ暇なんか全く無いよ」

「あなたたちも巣を作りなさいよ。そうしな  
いとまた寒い夜が来て、苦しむことになりま  
すよ?」

「きのうの夜も寒くて、凍えて泣いていたで  
しょ?」

と鳥さんたちに言われました。





お日様は寒苦鳥たちが、みんなの言うことを聞かず、いつまでもやることをやらずに、遊び回っているのを見て、

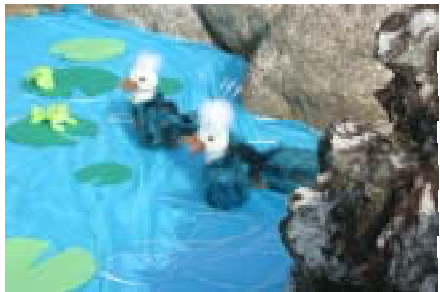
「あなた達はいつまで遊んでいるのですか？」

「夜の寒さを忘れたのですか？」

「夜が明けたら、必ず巣を作ろうと言っているたでしょ？」

「さあさあ早く、みんなの言う通り巣を作らなきゃダメですよ」

と、シシギびくく言いました。



「そりゃあお日様の言う通りだけど、せっかくのポカポカいい天気なんだから、巣を作る前にもうちよつとだけ遊ぼう」

「もう少し遊んだら必ず巣を作るから」

誰も一緒に遊んでくれない寒苦鳥たちは、  
いこう言って、今度は水遊びを始めました。

「うわあー気持ちいいなあー」

「ほんと、たのしいねえー」

とむちゅつで遊んでいます。



いっぱい遊んだら、今度はお腹がすいてきました。

「ふう〜。お腹がすいたあ〜」

「こんなところには、美味しそうな木の实がたくさんあるぞあ〜」

「よし、食べようし〜」

「この木の实美味しいねえ〜」

寒苦鳥たちは嬉しそうに、ご飯をお腹いっぱい食べました。



きのうの夜も寒くて、まったく眠っていない寒苦鳥たち、いっぱい遊んで、いっぱい食べたて、お腹いっぱいになったら、どうなっちゃいますか？

そうですね、もう眠たくて眠たくて、巣を作るどころではありません。

「少しだけ」と、  
大きな岩の上で、「一匹寄り添って、コックリ、コックリ眠ってしまいました。

大きな岩くんは、あまりにも見かねて、  
「おお〜い。もう起きなよ！起きて巣を作らないと大変なことになっちゃうぞお〜」  
と、起ころうとしましたが…



二匹は疲れ果てて熟睡しています。

寒苦鳥たちは、夢の中です。

立派な巣があります。寒苦鳥たちの子ども  
がいます。家族仲良く暮らしています。

寒苦鳥たちは、立派な巣の中で暮らす、温  
かい家庭の夢を見ていたのです……

自分たちは、そんな夢を叶える、努力もな  
んにもしていないのに……。

何もしていないのに、いい結果だけを求め  
ようとするのは、大きな間違いです。

現実には……



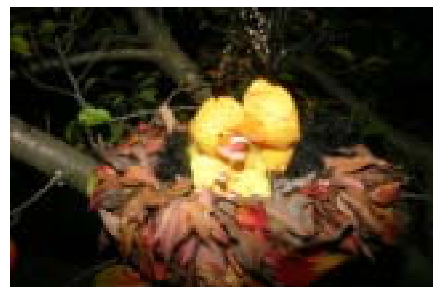
大きな岩くんに起こされて、あわてて飛び上がって、木の枝にしがみついて、なんとか巣を作ろうとする寒苦鳥たちでしたが、お日様は、アツという間に西の山に沈しずんで、すぐにまたあの寒く苦しい、真っ暗な夜になってしまいます。

「どじりどじり、また夜になっちゃったよ…」

「巣を作ろうと思っていたのに…」

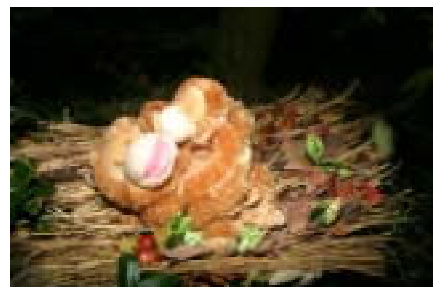
「あゝ。どじりどじり」

真っ暗な中では何もできません。



真つ暗な夜になってしまいました。

昼の間、一生懸命いっしょうけんめいにお父さんは食べ物を集めたり、お母さんは巣を作ったり、なおしたり働いていた鳥さんは、生まれたばかりの子ども達も、あたたかい巣にもぐり込んで、スヤスヤ気持ちよさそうに眠っています。



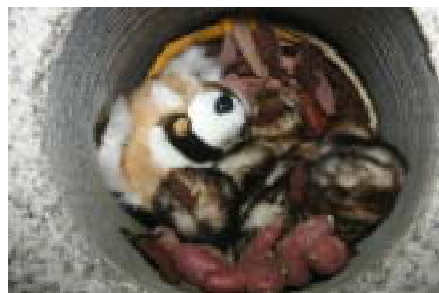
サルさんも、

「お母さん、今日もいっぱい働いたね？」

「そうだねえ〜。おまえも一生懸命にそうじをしてくれたから、こつちやって気持ちよく寝ることができるねえ〜。ありがとつねえ〜」

と、親子の暖かい会話が聞こえてきます。





アライグマさんも、自分の掘った穴の中に、  
食べ物をいっぱいいたくわえて、外は寒いのに、  
暖かくしてぐっすり休んでいます。

「あしたは、あそこの山まで、」ご飯を探しに  
行ってみようかなあ。むじゅ、むじゅ。も  
うお腹いっぱいだよあ。」



リスさんも、集めたドングリがいっぱいある巢の中で、暖かそうにグツスリ眠っています。また明日元気に頑張るためです。

「今日遊びに来た寒苦鳥さん達は、どうしてるかなあ〜」

「ちゃんと巢を作ることができたかなあ〜」

と、リスさんは夢の中でも、寒苦鳥たちを心配してました。

けっきょく遊んでばかりで、また巢を作れなかった寒苦鳥たちはどうしているのでしょうか。



「寒い、寒くて死にそうだよー」

「明日はぜつたいに巣を作るゾ」

と寒苦鳥のつらそうな鳴き声が、あいかわらず夜通しよとろう聞こえます。

雪山では来る日も来る日も

「遊ぶ前に巣を作っておけばよかった」

と、苦しみの鳴き声が聞こえるのです。

大聖人様は、人間でもこれと同じ人がいると教えています。

大事なやるべきことをいつも後まわしにして、遊んでばかりいる人、困ったときだけ御本尊様をお願いして、困っていないときには御題目をあげない人は寒苦鳥と同じです。

ふだんから、勤行をしたり、お題目を唱えたり、お寺にお参りしたり、お山に御登山したり、お友達に信心のこと、御本尊様のことをお話したり、一番大事な信心のやるべきことを、しつかりとやることが大切なんですよ、と教えてくれているのです。解りましたか？  
これで終わります。